

依然として、組合運動が主として、戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。

10ノ2ノ1斗争の目的は、戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。

10ノ2ノ1斗争の目的は、戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。

10ノ2ノ1斗争の目的は、戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。

10ノ2ノ1斗争の目的は、戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。

を注いでいる。この問題を突破するのは政治的闘争による。全体的に闘争の交代と、その後の結合が要求されてくる。②1/4で、ネフハートの敗北。

10ノ2ノ1斗争の目的は、戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。戦前運動の結の枠内での戦前運動である。

社説 理論論誌

理論戦線

7月号再版 三〇〇円
8月号 三〇〇円
戦旗社で発売中

三 総括と今後の斗争方向

以上の事實問題に対するわれわれの立場の再確認と現在の如く以降の弾圧の又二局面の準備はあくまでこれに、改めて十、八斗争の革命的意義を明したし、斗争方向を以下のごとく設定する必要がある。

① 羽田斗争の必然性と階級斗争全体の中之での位置

10、8 羽田斗争は、危機と危機にのぞむ支配者階級の政攻撃の総体から必然化された、被抑圧階級の前進的行動の最も現れた唯一の正しく戦闘的行動であった、この行動に加えられた弾圧及び、その後の弾圧の展開は、支配階級の総体、総路線の貫徹に不可分一体であり、この攻撃に対し、10、8 斗争の正当性、意義を全面的に防衛しめくことなくして、支配階級の総路線に対する斗争の革命的発展はありえない。

入暴力、狂気、暴徒、暴動、破壊活動、暴撃、あせり、絶望的セクト／＼等々のオタクシヨマ暴官とデマゴギーに対し、われわれは政府、メルシヨママスコミ等至メルシヨア機関の一致したウソに対し、真実を安置することにも、われわれの斗争が、暴力的に展開されたこととをいえる主要権ゴセはなほなり。

11、この斗争の暴力性、11、2 攻撃未の又三期階級斗争の特徴の一つである。それは、11、2に、全戦線における個別斗争の暴力的対決を伴った過程として、被抑圧階級の政治的前進化するのに対した全人民的政斗斗争の推進とこの過程の主要的領域において、決定的な打ちこみ登場したことがある。

軍事外交を基軸とした日帝の路線に対して、全人民的斗争の先進部隊による暴力的行動による深化、拡張は避けられはならない。

何故なら、次に、現在の攻取の総体は、旧来の反政府諸党一大衆に対し、日帝の路線への「協力」に控制し、また、あくまで単なるロッキタだけの反対派に現体制の在からの支柱の位置におしこめられしことを要求するものであり、現にそのように進行し、カンラン「口民の同意」の枠からはみでる一切の潮流の戦闘的境

再暴行を許さぬのははらばらぬ。それにはどうわけ、入暴日斗争の折衝一をロシタリマ絶然の思想の又この結合による物議力への駆逐を、あくまで急務ははらばらぬ。

羽田斗争が、オタクシヨマに代表される日帝の攻取と連年の全面的パンロク、これに対する全面的根本的否定にこそ、全土党、日本のプロ、人民の支離の烈曲を争う唯一の原動力があることを、行動の果てはもたれなかった。それは、日帝の攻撃に先天的防衛戦をもちりす、現にある非和闘的対立を支配階級に展開する形勢をわれわれは同じなう持った。そして、あつてまで、実力阻止、そして、暴力的斗争以外にない。侵略、抑圧、反革命の攻取のつぎまひ、必然的でそれを貫徹する位置としての口家、支配者階級の権威として、階級性と暴力性を前面におしたして、我闘させる。

日帝の総路線はそれ自身が暴力であり、かつ公的暴力にやって貫徹される。だが、この暴力のナベに決して、トッるすることによって、宛争を専ら、秩序に動揺をもちこみ、大衆にとつての権力と権力の力への恐怖、信頼、服従を破カイし、政治的行動をがこせさせることとをきたしては、反帝斗争の推進はありえない。10、8、11、また下へのやうに暴力的斗争としていかにありえなかつた。

③ 羽田斗争は、暴力的斗争をもちて決めることによつて、日本のプロ、人民をアメリカ、ソビエト、シムはじめ世界の今日の連年斗争とがたかくむすびつた。日本の斗争は日境をこえて自ら、国際的結合を開始した。帝国主義の危殆の国際的「解決」、国際的多数の結合下対して、革命的人民の革命戦争、内乱、内政、家カ斗争による結合が10、8 斗争にやつて前進した。

羽田斗争は、日帝のソビエト日本、アメリカ、ソビエト、人民の抑圧者であることを示すところなくパンロクした。アメリカの暴入叛乱、反戦斗争は、10、11、12の巨大反暴力を獲得したのにはなり、旧米ロロロリアートの結合が、170年階級斗争、は階級斗争の心とべ、戦略的に決定的意味をもつてくることを「キチナリ

① 密集して攻撃にたいし、われわれは暴力闘争を闘つてきた諸党派も大衆組織における統一の保持は決定的に重要である。ことに、いさ闘争・弾圧にたいする原則的態度、死囚などの審判向願の完全な一致、核カール弾圧の仕方などはよくと対応、局面認識、情報の統一が重要であり、いさ当日の行動統制上のあれこれの論議はかぎりなく必要ではなからぬ。

③ 攻撃は、大衆・大衆団体にも同様、その自治の破かい、組織そのものの存在を問うものとして受けられてくる状況下で、大衆の斗いは、大衆自身の（代行的）ものでない。斗争組織は行動委員会が必ずである。クラス、職場をかゝる方向で組織すること。

④ あらゆる大衆・大衆団体に、抗議と連帯の行動にたこと、いさ闘争をひきつち、反戦、佐と外交反対斗争への結集をまびかり、結集すること。行動に示すことが今日の大衆に要求されていることであり、そうしないことは、ブルジョア政府、警察、メレジョア新助のやり口を暴露し、ゆるしているのと同じであることとをきかぬべきこと。

× × ×
〈攻撃の回響として〉

文部省は、Kの入りの「解剖」を参考資料として不評な態度「レキ被」をデッチあげ、かつ、ひきつちたての「西の学生と身体的」指図し、その「た」は「二」を依として「10日朝、夕刊」

現在の状況局面の最大のカギは、この攻撃に、大衆とそこに「こ」かつ、タイホ、組織ハカイにおいても攻撃と組織の「こ」が、関西に京都の学生Mに課せられた「こ」にある。この「こ」は、必とひきつち、いさ、いさ、いさへの労働者人民の大衆的立場に連絡するもので、決定的な破壊である。

ロウ派方針体制をかためよう。